

12-1 東海地震予知情報に於ける初動対応

①前提条件、心得

- (1) 東海地震予知情報が発令されてから地震発生まで2時間程度の猶予があるものとする。
- (2) 基本的には業務を中止し、初動対応完了後、指定避難場所(管理棟前駐車場)もしくは転倒・落下物の恐れがない最寄りの一時避難場所(別紙「NUCT構内避難場所」参照)に移動する。
- (3) 災害対策本部メンバーは災害用無線(ch1)携行のうえ指定避難場所に移動し、災害対策本部開設。尚、災害対策本部は速やかに初動対応後の指示を決定する。

②館内、構内への避難指示

- (1) 東海地震予知情報発令後、館内及び構内放送にて反復避難指示。
『警戒宣言が発令されました。初動対応後、最寄りの避難場所に移動して下さい。』
- (2) 初動対応後、災害対策本部で決定された指示を放送する。

③職員の行動基準

対象		対応
職員	館内	PC・複合機等の電気系統OFF、机、書庫及び扉の施錠した後、ヘルメット着用のうえ指定避難場所(管理棟前駐車場)に移動。
	構内	最寄りの避難場所に移動。 現場作業中の職員については、初動対応(安全措置)後、最寄りの避難場所に移動。 尚、一時避難場所に避難時は、各作業班長、責任者から災害対策本部(無線ch1)に初動対応完了連絡ならびに避難場所、人数を報告し、その後の指示を仰ぐ。
	外出時	安全な場所(出先機関の指定する避難場所もしくは公園、空地等)に避難。尚、車両移動時は、高速道路を走行せず(走行中の場合、最寄りのインターより退出)、一般道路走行。避難完了後、所属のTLに避難状況を連絡。
一般外来者		来客対応者が誘導し、最寄りの避難場所に移動。
その他外来者		館内及び構内放送にて、最寄りの避難場所に移動指示。
工事業者、整備業者		NUCT担当者から無線及び携帯電話等で連絡、最寄りの避難場所に移動指示。

④-1初動対応

項目	担当者	対応
初動指示	館内放送	大日警 館内放送設備にて館内に対し警報発令、避難指示。
	構内放送	大日警 放送設備にて構内に対し警報発令、避難指示。
	無線連絡	オペレーションチーム 災害時緊急ボタンを押し、無線(全チャンネル)にアナウンスする
減災措置	避難誘導班	火元、転倒、落下物等安全対策確認。
エレベータ使用禁止措置	NUCT職員	エレベータ内無人確認後、エレベータ電源を切る。
食料、飲料水確保	NUCT職員	災害備蓄品の確認と確保(持ち出しの管理)。
応急救護準備	救護班	負傷者発生時に備え、NUCT事務所に有る 救急箱を携行。
安否確認準備	安否確認担当	安否確認名簿携行(出勤簿、作業員名簿等)。
災害対策本部開設準備	NUCT職員	指定避難場所にて災害対策本部が開設できるよう備品準備。 (災害マニュアル、筆記用具、拡声器、無線機等を対策本部に移動)

④-2初動対応

GC及びRTGについては全台安全措置完了後、機器管理チームリーダーに無線連絡。特高変電所は、機器管理チームリーダーの合図で受電所にてGC及びリーファー（電動RTG、冷凍コンテナ電源プラグ）の電源遮断実行。

対象	対応	
1. 外来トレーラー 構内トレーラー 構内走行乗用車等	1)レーン進入前	運転手は進入せず、その場で待機、若しくは【※1】
	2)レーン内	運転手はレーン内から退出し安全な場所に移動し待機、若しくは【※1】
	3)構内道路	運転手はコンテナ等、荷崩れしない安全な位置に移動し待機、若しくは【※1】
2. ヤード内機器	RTG	吊上げ中、移動中の貨物は近くの安全な場所に収め、スプレッダーを最上位まで巻上後、近くで最も貨物が少ない場所で停車する。エンジン停止後（電源遮断）輪止めを設置した後、指定避難場所又は、最寄りの一時避難場所へ退避。
	SC	吊上げ中、移動中の貨物を近くの安全な場所に収め、所定の駐機場所へ駐機、その後、最寄りの一時避難場所へ退避。
	リフト	吊上げ中、移動中の貨物を近くの安全な場所に収め、所定の駐機場所へ駐機、その後、最寄りの一時避難場所へ退避。
3. インゲート、アウトゲート	インゲート：作業停止し、遮断機を開放（受付中の作業はキャンセル）。アウトゲート：作業中の作業を完了させ、遮断機を開放。上記作業完了後、最寄りの一時避難場所へ退避。	
4. ガントリークレーン	吊上げ中、移動中の貨物を近くの安全な場所に収め、ブームアップ及びスプレッダーを最上位まで巻上してから作業中止、GCをアンカ位置にアンカ（走行アンカのみ）し、クレーンの電源OFF（機械室内）した後、最寄りの一時避難場所に退避、若しくは※1	
5. 岸壁作業者 （フォアマン、船内、沿岸等）	作業を中止し、最寄りの一時避難場所に退避、若しくは※1 尚、リフト使用者は貨物を近くの安全な場所に収め荷役を中止、リフトに輪止めを行い、最寄りの一時避難場所に退避。	
6. 船内作業者	作業を中止し、最寄りの一時避難場所に退避、若しくは※1	
7. マリンハウス（休憩中作業者）	最寄りの一時避難場所に退避。	
8. YO	1.沿岸作業員へ上記③の対応を行うよう無線指示。 2.構内車を停止させる。（交差点を避けトレーラーを退避させる為） 上記作業完了後、指定避難場所（管理棟前駐車場）へ退避。	

※1 各社の災害対応基準により避難する

【一時避難場所に退避後の対応について】

一時避難場所移動後、以下担当者に無線連絡し、初動対応完了連絡ならびに避難場所、人数を報告。担当者は、災害対策本部に無線（ch1）連絡し、その後の指示を仰ぎ、現場に指示する。

対象No.	担当者
1. 8	オペレーションチーム(CY)
2.	機器管理、沿岸作業員責任者
3.	オペレーションチーム(ゲートコントロール)
4. ~7.	担当フォアマン

④-3初動対応(メンテ)

機器管理チーム長・サブチームリーダーは警報発生のお知らせを受け次第各作業班長に警報が発生したことを知らせ下記の通りの処置をとった後、指定避難場所又は、一時避難場所に移動するように指示。

作業場所	現場指揮者	処置(地震発生迄に数時間以上見込まれる場合)	処置(地震発生が間近に迫っている場合)
GC(機上)	作業班長	直ちに作業を中断しブームアップ及びスプレッダーを最上位に巻上後クレーンをアンカー位置まで移動。機械室内にて電源OFF後階段にて地上に退避。	直ちに作業を中断し階段にて地上に降り、退避。
GC(機下)	作業班長	クレーンのアンカーセット後(走行アンカーのみ)退避。	退避。
RTG	作業班長	スプレッダーを最上位まで巻上、エンジン停止(電源遮断)後輪止めを設置。	エンジン停止(電源遮断)後退避。
メンテハウス	作業班長	作業を中断し移動の可能性のあるフォークリフトやスプレッダー台車などに輪止めをセット後、照明などの電源をOFF後退避。	同左。
事務所	所長	事務所内の照明などの電源OFF後退避。	同左。
その他	作業班長	作業を中断して退避。	同左。
特高変電所	電気主任技術者	YOからの無線連絡を受けた後、GC機側電源VCBのOFF確認後フィーダーパネルGC電源用VCB遮断及びリーファー電源用VCB遮断(NUCT社指示)後建屋南側の安全地域に退避。	同左。

⑤初動対応完了(避難完了)

項目	担当者	対応
安否確認	安否確認担当	所在不明者に対し電話連絡や、災害用伝言版等による所在確認。
災害情報収集	情報収集班	テレビ、ラジオ等の速報性の高い情報源のモニタリング。
初動後指示	連絡通報班	災害対策本部で決定した事項を放送する。

12-2 NUCT構内避難場所

